

東北各県の市区町村を一字で識別する方法

黒 田 昭

(山形大学農学部農地造成学研究室)

Display Method of Data Analysys of *shi, ku, cho* and *son* on Each Prefecture in *Tohoku* Region

Akira KURODA

Laboratory of Reclamation and Melioration, Faculty of Agriculture,
Yamagata University, Tsuruoka 997, Japan

(Received November 26, 1990)

Summary

This study is concerned to the method how to display for data analysis on unit of *shi, ku, cho* and *son* on each prefecture in *Tohoku* region.

We desire to display one significant symbol at two dimensional plane to indicate on these *shi, ku, cho* and *son* in the prefectures, that is analyzed by the method of correlation analysis or multivariate statistical analysis.

Though we have ideographic symbols so-called *kanji* to differ phonographic symbols, we can use *kanji* to indicate on these *shi, ku, cho* and *son* in the prefecture.

In Fig.1 the results on this study are shown about *shi, cho* and *son* of *Yamagata* prefecture. And in Table8, there are shown most useful symbol, *Ta* the word in sense of rice field, *kawa* the word in sense of river, *Dai* the word in sense of great and *Yama* the word in sense of mountain.

Keywords: prefecture; display method; ideographic symbol; statistical analysis; social statistics.

I. ま え が き

本論文は前に報告¹⁾した分析手法にもとづき、東北地方の6県について各県ごとの市区町村を対象に「一字識別法」に関する分析を行なった結果である。

さて、地域の分析に際しては各都道府県内の市区町村を単位とする場合が多い。この分析結果を図示するとき、棒グラフや円グラフのような本質的に一次的(一変数的)な表示の場合は、各都道府県内の市区町村名をそのまま略さずに用いればよいが、2次元的な表示たとえば2種類のデータの相関分析とか、主成分分析の結果(第1主成分と第2主成分の二変数、二次元座標)を表わしたいとき、市区町村を代表する一字

を点代わりとして用いたくなる。

このようにすれば、ただ点だけの分布図とか、各市区町村を数字などで識別するより、図の認識能を高めることができるからである。

東北地方を各県別に分析し、最後に6県の分析結果をまとめた。また、東北地方の全市区町村で最も多く用いられている文字についても集計を行なった。

そして、本方法の適応例としては、山形県の44市区町村を対象として人口増減率(全変動率)と社会変動率の分析結果を図1に例示した。

II. 予約語について

東北各県の分析を行なう前に、文字として既に使用が予定されており、識別表示するための文字としては使用できない「予約語」について触れておく。

予約語としては次の10語を指定している。それは「全・都・道・府・県・郡・市・区・町・村」である。

キーワード: 都道府県; 表示法; 表意文字; 統計分析;
社会統計

[1990年11月26日受理]

「全」は日本全国の平均的な値を図示するとき用いるための予約語である。

次に予約語「都・道・府・県」であるが、これは常に使用禁止されるものではなく、たとえば「都」は東京都内の市区町村を分析するとき東京都の平均的な値を図示するために予約しているから、ほかの道府県のときには用いても差し支えないことになる。

同様に「道」は北海道のときのみ、「府」は京都府と大阪府のときのみ予約語となっている。

したがって、「県」は青森県から沖縄県までの43県のときに予約語となっていることになる。

予約語「郡」については後で述べることにして、予約語「市・区・町・村」はその都道府県内の全市、全区、全町および全村をまとめたデータとして表示したいとき用いるための予約語となっている。したがって、予約語「郡」は都市部と見なされる全市に対して、農村部と見なされる全町と全村を合わせたデータを表示したいときに用いるためのものである。

Ⅲ. 青森県の67市町村の分析結果

青森県は8市34町25村の計67市町村より成り立っており、分析結果は表1に示すとおりである。この県では平館村の「館」と田舎館村の「館」と使い分けられているので注意が必要である。

また、予約語の関係では市浦村の「市」が該当することになる。この文字はほかには使用されていない文字（単字）であるが、予約語であるから識別文字として使用することはできない。したがって、市浦村は本来ならBランクとして位置づけられるところであるが、文字「市」は重複して使われている文字（重字）と同じ扱いとなり、結局Dランクに位置することになる。

次に、重字の一覧表みると「田」が9回と多く、また青森県らしく「戸」が5回とよく使われているのがわかる。合わせて28種の文字が重複して使用され、その延べ使用回数は77回（字）となっている。

青森県の全市町村を表わすのに使用されている延べ文字数は147字であるが、文字の種類は98文字種²⁾である。

市町村を一字で表示しようとする目的のためには、なるべく多くの字種が使われている方が望ましい。したがって、文字種数の延べ文字数に対する割合を巨視識別度³⁾として指標化すると、表1の下にあるように、青森県の巨視識別度は66.7%となる。また、微視

表1 青森県（8市34町25村、計67市町村）

Aランク (15例)	Bランク (23例)	Cランク (13例)	Dランク (16例)
(む) つ (弘) 前 (今) 別 (柏) (車) 力 (稲) 垣 (相) 馬 (西) 目屋 (浪) 岡 (板) 柳 (常) 磐 (中) 里 (佐) 井 (小) 泊 (横) 浜	(青) 森 (八) 戸 (七) 戸 (鰯) ケ沢 (倉) 石 (百) 石 (黒) 石 (蟹) 田 (深) 浦 (下) 田 (鶴) 田 (風) 間浦 (福) 地 (新) 郷 (金) 木 (天) 間林 (蓬) 田 (藤) 崎 (名) 川 (階) 上 (屋) 上 (碇) ケ沢 (脇) 野沢	三 (厩) 十和田(湖) 五所川(原) 平 (館) 田(舎)館 木 (造) 田 (子) 大 (畑) 大 (鰯) 東 (通) 平 (賀) 野(辺)地 南 (部)	(森) 田 (五) 戸 (三) 戸 (六) 戸 三 (沢) 六ケ(所) (十)和田 川 (内) (岩) 木 大 (間) 上 (北) 東(浦) 南 (郷) 岩 (崎) (東) 北 (平) 内

重字一覧表

重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数
田	9	大	3	五	2	地	2	郷	2
戸	5	木	3	六	2	和	2	合 計	28種 77字
-----	-----	石	3	十	2	野	2		
ケ	3	沢	3	内	2	岩	2		
三	3	平	3	北	2	所	2		
川	3	浦	3	東	2	森	2		
上	3	間	3	南	2	崎	2		

$$\text{延147字} = 67 \cdot 2 - 1 + 10 + 2 \cdot 2$$

$$98\text{種} = 147 - 77 + 28$$

$$\text{巨視識別度} 66.7\% = (98/147) \cdot 100$$

$$\text{微視識別度} 66.4\% = (15 + 23 + 13/2) \cdot 100/67$$

識別度については、文末の補注(c)を参照されたい。

表2 岩手県(13市31町18村, 計62市町村)

Ⅳ. 岩手県の62市町村の分析結果

岩手県は13市31町18村の計62市町村より成り立っており、分析結果は表2に示すとおりである。

予約語の関係では都南村の「都」と種市町の「市」がある。予約語「都」は前にも述べたように東京都を分析するときのためのものであるから、岩手県では識別文字として使用して差し支えないことになる。

次に重複して使われている重字の一覧表をみると青森県と同じくやはり「田」が7回と多い。次に、「沢」と「大」がつづいている。重字の文字種は22種であり、重字延べ使用数は65回である。

岩手県の全市町村の延べ文字数は132字であり、文字種は89種である。

巨視識別度は67.4%となり、先の青森県とほぼ同じようである。

さて岩手県では1991年4月1日付で北上市、和賀町と江釣子村が合体(対等合併)⁴⁾し、新たに北上市となる。そこで合併後の岩手県13市30町17村の60市町村について識別分析すると、表2のうちCランクの和賀町と江釣子村がなくなり、またCランクの江刺市がAランクに移り、代わりにDランクの東和町がCランクに移ってきて15例となり、Dランクは11例、Aランクは12例となる。そして、表2の点線の下に記入されているような識別文字となる。また、合併によって重字の「江」と「和」が単字となるから、重字の文字種は20種となり、重字延べ使用数は61回となる。

表の下に新北上市の誕生後の各指標についても分析しておいた。

Ⅴ. 秋田県の69市町村の分析結果

秋田県は9市50町10村の計69市町村より成り立っており、分析結果は表3に示すとおりである。

予約語は一切使用されていない。

次に重字一覧表をみると先の2県とおなじように「大」、「田」、「川」が6～5回と多い。

秋田県の特徴は横手盆地に所在する町村に「仙」と「雄」が多く使用されているところである。「雄」は雄物川に由来しているのであろう。

重字の文字種は30種であり、重字延べ使用数は83回である。

秋田県の全市町村名の延べ文字数は151字であり、文字種は98種である。

A ランク (11例)	B ランク (22例)	C ランク (17例)	D ランク (12例)
(新) 里 (松) 尾 (紫) 波 (矢) 巾 (盛) 岡 (北) 上 (久) 慈 (千) 厩 (軽) 米 (浄) 法寺 (都) 南	(玉) 山 (滝) 沢 (釜) 石 (水) 沢 (遠) 野 (二) 戸 (雫) 石 (葛) 巻 (西) 根 (湯) 田 (金) ケ崎 (胆) 沢 (衣) 川 (平) 泉 (藤) 沢 (室) 根 (譜) 代 (九) 戸 (安) 代 (住) 田 (三) 陸 (種) 東	宮 (古) 一 (関) 大(船)渡 陸前(高)田 岩 (手) 大 (槌) 宮 (守) 田 (老) 大 (迫) 石(鳥)谷 沢 (内) 川 (井) 田 野(畑) 山 (形) 江 (刺) 和 (賀) 江(釣)子	(前) 沢 (川) 崎 (一) 戸 (花) 巻 (花) 泉 (岩) 泉 (東) 山 (山) 田 (野) 田 (大) 東 (和)
(新北上市の誕生後は次を用いてもよい)			
[(江) 刺]		[東 (和)]	

重字一覧表

重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数
田	7	川	3	一	2	崎	2	合 計	22種 65字
沢	6	戸	3	代	2	根	2		
大	5	石	3	岩	2	巻	2		
		泉	3	前	2	陸	2		
山	4	東	3	宮	2	江	2		
野	4			花	2	和	2		

(新北上市の誕生前)

$$\text{延132字} = 62 \cdot 2 + 6 + 1 \cdot 2$$

$$89\text{種} = 132 - 65 + 22$$

$$\text{巨視識別度} 67.4\% = (89/132) \cdot 100$$

$$\text{微視識別度} 66.9\% = (11 + 22 + 17/2) \cdot 100/62$$

(新北上市の誕生後)

$$\text{延127字} = 60 \cdot 2 + 5 + 1 \cdot 2$$

$$86\text{種} = 127 - 61 + 20$$

$$\text{巨視識別度} 67.7\% = (86/127) \cdot 100$$

$$\text{微視識別度} 69.2\% = (12 + 22 + 15/2) \cdot 100/60$$

表3 秋田県(9市50町10村, 計69市町村)

Aランク (16例)	Bランク (20例)	Cランク (13例)	Dランク (20例)
(横) 手 (天) 王 (若) 美 (鷹) 巢 (琴) 丘 (藤) 里 (峰) 浜 (河) 辺 (矢) 島 (金) 浦 (鳥) 海 (十) 文字 (六) 郷 (羽) 後 (神) 岡 (千) 畑	(秋) 田 (能) 代 (男) 鹿 (湯) 沢 (五) 城目 (昭) 和 (飯) 田川 (比) 内 (合) 川 (上) 小阿仁 (二) ツ井 (岩) 城 (象) 潟 (増) 田 (平) 鹿 (稲) 川 (中) 仙 (皆) 瀬 (協) 和 (太) 田	本 (莊) 大 (曲) 八 (郎) 潟 森 (吉) 八 (竜) 仁 (賀) 保 雄 (物) 川 田 沢 (湖) 小 (坂) 南 (外) 西 (木) 東 (成) 瀬	(井) 川 田 (代) 山 (本) (鹿) 角 (角) 館 大 (館) 西 (目) (阿) 仁 (山) 内 仙 (南) (西) 仙北 仙 (北) 大 (潟) (八) 森 大 (内) (由) 利 大 (森) 雄 (和) (東) 由利

重字一覧表

重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数
大	6	仁	3	小	2	沢	2	東	2
田	6	和	3	井	2	角	2	由	2
川	5	内	3	山	2	阿	2	利	2
仙	4	西	3	目	2	南	2	合 計	30種 83字
雄	4	森	3	北	2	瀬	2		
八	3	鹿	3	代	2	館	2		
		潟	3	本	2	城	2		

$$\text{延151字} = 69 \cdot 2 + 11 + 1 \cdot 2$$

$$98\text{種} = 151 - 83 + 30$$

$$\text{巨視識別度} 64.9\% = (98/151) \cdot 100$$

$$\text{微視識別度} 61.6\% = (16 + 20 + 13/2) \cdot 100/69$$

巨視識別度は64.9%と先の2県(青森県と岩手県)より少し落ちている。そのため重字のみから成り立っているDランクに属する市町村が多い。

北東北の3県すなわち、青森、岩手、秋田県は構成する市町村の数といい、重複して用いられている文字種といい、また、各ランクの出方すなわちBランクが多くDランクが比較的少ないなど似かよった面が多い。

表4 山形県(13市27町4村, 計44市町村)

Aランク (17例)	Bランク (15例)	Cランク (4例)	Dランク (8例)
(鶴) 岡 (新) 庄 (天) 童 (長) 井 (南) 陽 (東) 根 (遊) 佐 (八) 幡 (藤) 島 (温) 海 (余) 目 (羽) 黒 (櫛) 引 (高) 畠 (飯) 豊 (白) 鷹 (小) 国	(米) 沢 (酒) 田 (尾) 花沢 (寒) 河江 (松) 山 (平) 田 (三) 川 (立) 川 (最) 上 (金) 山 (真) 室川 (舟) 形 (中) 山 (鮭) 川 (戸) 沢	大(石)田 大 (蔵) 河 (北) 山 (辺)	山 (形) 林 (山) (上) 山 (西) 川 (川) 西 大 (江) (朝) 日町 朝(日)村

重字一覧表

重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数
山	7	大	3	西	2	合 計	12種 36字
川	6	上	2	河	2		
田	3	日	2	形	2		
沢	3	江	2	朝	2		

$$\text{延92字} = 44 \cdot 2 + 4$$

$$68\text{種} = 92 - 36 + 12$$

$$\text{巨視識別度} 73.9\% = (68/92) \cdot 100$$

$$\text{微視識別度} 77.3\% = (17 + 15 + 4/2) \cdot 100/44$$

Ⅵ. 山形県の44市町村の分析結果

山形県は13市27町4村の計44市町村より成り立っている。東北地方のなかでは、人口数に比べても市町村数が少ない。それだけ、市町村合併が進んでいることを示している。分析結果は表4に示すとおりである。

予約語としては村山市の「村」があり、これは識別文字として使用禁止である。

次に重字一覧表をみると「山」と「川」が多い。重字の文字種は12種であり、重字延べ使用数は36回である。

山形県の全市町村名の延べ文字数は92字であり、文字種は68種であるから、識別度は73.9%と東北地方では際だって大きな値となっている。

巨視識別度の高いことを反映して、識別性の高いA、Bランクに属する市町村が多く、識別性の低いC、Dランクに属する市町村は少ないという結果になっている。また、山形県には東北地方で唯一の朝日町と朝日村という同じ名称があり、当然のことながらDランクに位置づけられている。朝日「町」の方に敬意を表して「朝」を識別文字とすれば、朝日村は「日」ということになる。

VII. 宮城県の76市町村の分析結果

宮城県は10市5区59町2村の計76市区町村より成り立っている。周知のとおり仙台市は1985年11月1日に宮城町を編入し、次年の3月1日にはつづいて泉市と秋保町を編入して、人口80万人都市の仲間入りを果たし、'89年4月1日付をもって政令指定都市に昇格し、5行政区を設けた。本分析の主旨からいって区も同等に識別分析の対象としておいた方がよいから、仙台市の5区と仙台市そのものを合わせた76市区町村の分析結果を表5に示す。

したがって、仙台市を識別表示する「仙」は仙台市内5区の平均的な値を示していることになる。

予約語の関係でみると村田町の「村」が予約語であり、使用禁止である。

次に重字一覧表をみると「田」が8回と多く、次に「山」6回とつづく。重字の文字種は35種であり、重字延べ使用数は89回である。宮城県の全市区町村名の延べ文字数は165字であり、文字種は111種である。

巨視識別度は67.3%であるが、識別性の悪いDランクが多くなっている。

VIII. 福島県の90市町村の分析結果

福島県は10市52町28村の計90市町村より成り立っている。東北地方のなかでは、人口数に比べても最大の市町村数を有している。予想通りDランクが多い結果となっている。

予約語の関係では郡山市「郡」が予約語であり、使用できない。また、都路村と山都町の「都」も予約語であるが、これは岩手県の分析に際して既述したとおりである。

次に重字一覧表をみると「川」が10回と多い。次に福島県の特徴として、「津」と「郷」が6回と多い。「津」

表5 宮城県(10市5区59町2村、計76市区町村)

Aランク (18例)	Bランク (17例)	Cランク (19例)	Dランク (22例)
(名) 取	(太) 白	若 (林)	(迫)
(青) 葉	(古) 川	若 (柳)	(鳴) 瀬
(泉) 龍	(気) 仙沼	石 (巻)	(岩) 沼
(塩) 竈	(角) 田	七ヶ(宿)	(白) 石
(蔵) 王	(多) 賀城	七ヶ(浜)	(米) 山
(丸) 森	(柴) 田	大河(原)	(志) 津川
(亘) 理	(三) 本木	山 (元)	(津) 山
(利) 府	(富) 谷	中(新)田	(川) 崎
(色) 麻	(涌) 谷	小(牛)田	(小) 野田
(金) 城	(一) 迫	岩(出)山	(中) 田
(築) 館	(花) 山	田 (尻)	(仙) 台
(栗) 駒	(登) 米	瀬 (峰)	(鹿) 島台
(高) 清水	(東) 和	志(波)姫	松 (島)
(鶯) 沢	(女) 川	北 (上)	(松) 山
(桃) 生	(矢) 本	南 (方)	河 (北)
(豊) 里	(牡) 鹿	石 (越)	河 (南)
(雄) 勝	(歌) 津	本 (吉)	南 (郷)
(唐) 桑		大 (衡)	(大) 郷
		鳴 (子)	大 (和)
			(宮) 崎
			宮(城)野
			林 (田)

重字一覧表

重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数
田	8	津	3	北	2	和	2	瀬	2
山	6	南	3	谷	2	若	2	郷	2
				仙	2	野	2		
				岩	2	迫	2		
大	4	七	2	松	2	沼	2	合	計
川	4	ヶ	2	台	2	崎	2		
		小	2	宮	2	島	2		
石	3	中	2	鳴	2	鹿	2	35種	
本	3	白	2	志	2	城	2	89字	
河	3	米	2						

$$\text{延165字} = 76 \cdot 2 - 2 + 15$$

$$111\text{種} = 165 - 89 + 35$$

$$\text{巨視識別度} 67.3\% = (111/165) \cdot 100$$

$$\text{微視識別度} 58.6\% = (18 + 17 + 19/2) \cdot 100/76$$

の文字は会津盆地の市町村に「会津」を付した名称の多いことによる。

次に、重字の文字種は37種であり、重字延べ使用数は110回である。

福島県の全市町村名の延べ文字数は195字であり、文字種は122種であるから、巨視識別度は62.6%と東北地方では最も小さな値となっている。

このことはDランクに属する市町村が30市町村もあることに現われている。

まとまっていた北東北の3県に比べて、南東北の3県すなわち山形、宮城、福島県はそれぞれに個性的である。

このことは地域学の基本法則の一つである、「中心都市（東北地方では首都圏）より離れるにしたがって、諸システムは単純な構造となる」という法則の表われでもある。

IX. 本方法の適応例

そして、本方法の適応例としては、山形県の44市町村を対象として、1980年の国勢調査から1985年の国勢調査までの5年間の全変動率（人口増減率）と人口の社会変動率の分析結果を図1に例示した。

本図をみてもわかるとおり、二変数の間の関係は最も人口増加の大きい天童市から、最も人口減少の激しい温海町まではほぼ一直線上に分布している。人口集積の高い市町は山形市を中心とし、その周辺の天童市、東根市、中山町、河北町、寒河江市、上山市などである。とくに天童市は転入という社会的変動によって人口集積をなしている。

X. 東北地方の全市区町村のまとめ

以上で東北地方の6県のそれぞれの分析を終えたから、ここで東北地方をまとめて見てみる。表7にそのまとめを示すが、岩手県の欄と合計の欄は北上市の合併前と後の両方を示すため2欄づつとなっている。

さて、東北地方の全市区町村は408体（北上市の合併後は406体）となり、延べ文字数は882字（同じく877字）となる。

東北地方の全市区町村名のうち一文字で表わされるものが青森県柏村、宮城県泉区などの5区町村あり、逆に東北地方では最多⁹⁾の四文字で表わされているものが青森県十和田湖町、秋田県上小阿仁村、福島県会津若松市など8市町村ある。三文字のものが次に多く55市区町村（北上市の合併後は54体）ある。したがっ

表6 福島県(10市52町28村, 計90市町村)

A ランク (17例)	B ランク (27例)	C ランク (16例)	D ランク (30例)
(喜) 多方	(福) 島	会津(若) 松	亶 (山)
(い) わき	(須) 賀川	会津(坂) 下	山 (都)
(相) 馬	(保) 原	川 (俣)	(白) 河
(磐) 梯	(二) 本松	本 (宮)	北(会) 津
(桑) 折	(梁) 川	三 (春)	(西) 会津
(長) 沼	(国) 見	大 (熊)	会津高(田)
(塙)	(月) 館	川 (内)	(河) 東
(檜) 枝岐	(柳) 津	大 (越)	(石) 川
(古) 殿	(表) 郷	都 (路)	(三) 島
(滝) 根	(蛟) 川	矢 (吹)	(下) 郷
(葛) 尾	(浅) 川	矢 (祭)	飯 (館)
(棚) 倉	(猪) 苗代	新 (地)	田 (島)
(天) 栄	(中) 島	新 (鶴)	(本) 郷
(船) 引	(安) 達	大 (信)	館 (岩)
(浪) 江	(湯) 川	白 (沢)	(高) 郷
(泉) 崎	(霊) 山	岩 (瀬)	(北) 塩原
(富) 岡	(平) 田		(大) 玉
	(檜) 葉		(原) 厩
	(常) 葉		(飯) 野
	(双) 葉		伊 (達)
	(広) 野		伊 岩 (代)
	(昭) 和		(伊) 南
	(只) 見		(南) 郷
	(鏡) 石		西 (郷)
	(鹿) 島		東 (和)
	(金) 山		(東) 川
	(熱) 塩加納		(玉) 小
			(小) 高
			(塩) 川

重字一覧表

重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数	重字	個数
川	10	田	3	館	3	伊	2	新	2
津	6	本	3			玉	2	都	2
郷	6	東	3	三	2	代	2	飯	2
		高	3	小	2	見	2	達	2
		原	3	下	2	和	2		
会	5	岩	3	矢	2	河	2		
島	5	野	3	石	2	西	2		
		葉	3	北	2	松	2	合	計
大	4	塩	3	白	2	南	2		37種
山	4								110字

$$\text{延}195\text{字}=90\cdot 2-2+9+4\cdot 2$$

$$122\text{種}=195-110+37$$

$$\text{巨視識別度}62.6\%=(122/195)\cdot 100$$

$$\text{微視識別度}57.8\%=(17+27+16/2)\cdot 100/90$$

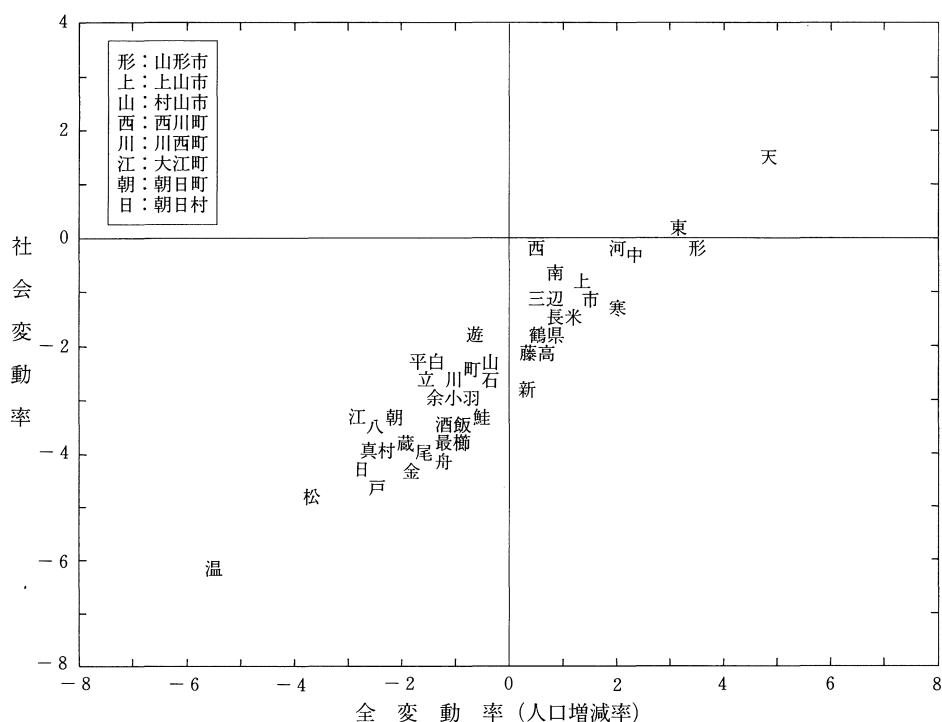


図1. 本方法の適応例 (山形県市町村の全変動と社会変動)

表7 東北地方6県のまとめ

項 目 \ 県 名	青森県	岩 手 県		秋田県	山形県	宮城県	福島県	合 計	
		(前)	(後)					(前)	(後)
市区町村の村	67	62	60	69	44	76	90	408	406
市の数	8	13	13	9	13	10	10	63	63
区の数	—	—	—	—	—	5	—	5	5
町の数	34	31	30	50	27	59	52	253	252
村の数	25	18	17	10	4	2	28	87	86
Aランクの数	15	11	12	16	17	18	17	94	95
Bランクの数	23	22	22	20	15	17	27	124	124
Cランクの数	13	17	15	13	4	19	16	82	80
Dランクの数	16	12	11	20	8	22	30	108	107
一文字の数	1	0	0	0	0	2	2	5	5
二文字の数	54	55	54	57	40	59	75	340	339
三文字の数	10	6	5	11	4	15	9	55	54
四文字の数	2	1	1	1	0	0	4	8	8
使用文字数	147	132	127	151	92	165	195	882	877
使用文字種	77	65	61	83	36	89	110	460	456
単字種	98	89	86	98	68	111	122	586	583
重字種	70	67	66	68	56	76	85	422	421
重字種	28	22	20	30	12	35	37	164	162
巨視識別度(%)	66.7	67.4	67.7	64.9	73.9	67.3	62.6	66.4	66.5
微視識別度(%)	66.4	66.9	69.2	61.6	77.3	58.6	57.8	63.5	63.8

表8 東北地方6県の主たる重字

重字	個数	重字	個数	重字	個数
田	36	沢	16	南	11
川	31	石	12	野	11
大	25	和	11	郷	11
山	23	東	11	北	10
				岩	10

て、残る約9割の340市区町村（同じく339体）が二文字ということになる。

識別度を見ると、巨視識別度より、やはり微視識別度の方がより実態を反映している。たとえば、分析のし易かった山形県が巨視値より微視値の方が高い値を示し、分析のし難かった福島県がより低い値を示している。しかし、微視識別度は分析が終わった後で算出される値であるから、当初に分析のし易さを判定するための指標としては用いられない。

次に、東北地方6県で使用されている重字を調べると、表8にあるように「田」と「川」が30回以上と圧倒的に多い。つづくのが「大」と「山」である。なお、北上市の合併後は表から重字「和」が一回少なくなり10回となる。

岩手県下閉伊郡山田町^{a)}とか山形県北村山郡大石田町^{b)}などが、その名称からいうと東北地方を代表しているともいえるし、あるいは最も平凡な名称ということにもなる。とはいっても、両者とも1889年（明治22年）4月1日付けで誕生した我が国最初の近代的地方制度である「市制・町村制」施行時よりの由緒ある名称ではある。

補 注

a) 各表の下の方に記入されている市区町村の延べ文字数の勘定の仕方は、我が国の場合そのほとんどのが二文字であるから、まず市区町村数を2倍する。次に一文字の市区町村の数を引き、三文字の市区町村の数を足す。最後に四文字の市区町村の数の差し引き二文字分の2倍を足す。このように勘定すると速くて正確であり、その計算法が表の下に記されている。

b) 各表の下の方に記入されている市区町村の文字種の勘定の仕方は、延べ文字数から重字一覧表にある重字の延べ使用数を引くと答えは重複して使用

されていない文字種（単字種）の数となる。これに重字の種類の数（重字種）を足せば、使用されている文字の種類の数（使用文字種）がでる。その計算法が表の下に記されている。

- c) 巨視識別度は簡便な指標である。理論的にいえば、各市区町村の名称（二文字とする）の最初に用いられる文字（初字）が一度しか使用されない文字（単字）であれば、識別度が50%でも、わかりやすい最初の一文字で、理想的に識別可能である。そこで微視的な識別度として初字で識別できるものの（AランクとBランク）の識別点を1点とし、次の文字（次字）で識別できるもの（Cランク）は識別能を半分と見て1/2点とする。Dランクはまったく識別されないから当然0点である。また、Aランクの次字も単字であるから識別性がよいが、本論の目的のためには無駄であるから評価されない。一例として青森県の微視識別度は、

$$((15+23) \cdot 1 + 13/2) \cdot 100/67 = 66.4\%$$
と算定される。

- d) 行政用語で合体とは、「市町村を廃し、その区域をもって新たに市町村を置く」ことをいい、俗に対等合併といわれるものである。そして行政用語の編入とは、「市町村を廃し、その区域を他の市町村に編入する」ことであり、俗に吸収合併といわれるものである。
- e) 我が国で最も多くの文字を用いて表わされている市町村名は、5文字で静岡県田方郡天城湯ヶ島町だけである。
- f) 1889年（明治22年）4月1日に巖手県（現岩手県）東閉伊郡山田町として誕生。1896年3月29日に属する郡が中閉伊郡と合併改称して下閉伊郡となり、'53年10月施行の3年間の時限立法「町村合併促進法」に従って、'55年3月10日に船越、織笠、大沢、豊間根の4村と合併して現在に到る。
- g) 1889年（明治22年）4月1日に山形県北村山郡大石田村として誕生。1897年に町制に昇格し、'53年10月施行の3年間の時限立法「町村合併促進法」に従って、'55年1月1日に横山、亀井田の2村と合併して現在に到る。

引用文献

- 1) 黒田 昭(1989): 都道府県を一文字で識別する方法, 山形農林学会報, 46: 33-38